

平成 23 年 5 月 30 日現在

機関番号：47106

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730465

研究課題名(和文) 幼児期の対人場面における否定的情動認知と情動制御発達の横断的・縦断的検討

研究課題名(英文) The cross-sectional and longitudinal study of the development of young children's cognition of negative emotion and emotion regulation in interpersonal scene

研究代表者

鹿島 なつめ (KASHIMA NATSUME)

九州女子短期大学・初等教育科・講師

研究者番号：80442408

研究分野：人文社会系 社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：(G)セルフ・コントロール

1. 研究計画の概要

本研究は、幼児期の対人場面で喚起される否定的情動(例えば不安・怒り)に対する認知と情動制御の発達を、3歳時から就学にかけて横断的調査と縦断的調査を併用して考察することを目的とする。また本研究では情動認知と情動制御発達の様相と日常生活での行動調査(Child Behavior Checklist: CBCL)との関連、先行研究より導き出された関連要因との検討の検討までを研究期間中に行いたいと考える。

具体的調査としては、幼児の感情認知課題と情動制御に関して幼児への図版を用いた面接調査の縦断施行、保護者への質問紙調査(CBCL、しつけ方略)の実施、通園している園での問題行動調査(CBCL)の実施を3年にわたって行う。初年度と2年目では横断的調査による否定的情動認知と制御発達の関連についてまとめ、以降は縦断的調査による情動制御と問題行動との関連を検討する。

本研究の結果により、情動制御の困難を持つ子どもについて、園や親への支援を含めた早期の効果的な介入を提供し、児童期・思春期以降の外向的・内向的問題行動発展の減少に寄与することが本研究の意義であると考えられる。

2. 研究の進捗状況

予備研究により、感情認知課題を決定後、初年度と2年目の調査を終え、調査の入力等の分析準備を進めている状態である。

縦断的調査のため、今年度3年目の調査を行うための準備も並行して行っている。

本研究に関する学会発表は今年度7月の発表を含め、2回行われているが、論文として未だ発表できていないため、3年目の調査終了後には順次発表していく予定である。

3. 現在までの達成度

調査は計画通り、順調に進んでいる。

しかし縦断調査中、各年度半年にわたって研究代表者1名が幼児へのインタビュー調査に出る関係で、データのまとめと公表の予定が遅れている。

今年度はできるだけデータのまとめと公表に力を入れたいと考えるが、今年度3月末まで縦断調査の最終調査を進めるため、研究期間すべてのデータのまとめと公表自体は研究期間終了後にならざるを得ない状況である。

このため、現時点での達成度は十全ではない。

4. 今後の研究の推進方策

各保育園のご協力のおかげで、これまでなかなか収集できなかった価値のある縦断的データが集

積されつつある。

まずは最終年度のデータを確実に収集し、幼児のインタビュー分析と保護者・保育士への質問紙調査の分析を縦断的に検討し、知見を公表していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計2件)

鹿島なつめ、幼児期の否定的情動に関する言語内容の縦断的検討、日本教育心理学会第53回(北海道学校心理士会・北翔大学)発表論文集 (2011)

鹿島なつめ、3歳児の否定的感情の認知、言語化と情動制御の関連、日本教育心理学会第51回(静岡大学)総会発表論文集、586 (2009)